

【専門部会設置前の状況】これまで、発達障がいを持つこどもの成長記録を統一的に整理する仕組みはなく、関係機関が独自の様式に従って記録しているにとどまっており、進学、転校などにより十分な引継ぎが行われていない可能性があった。→「**発達支援ファイル**」を土台とした**仕組みづくりの必要性**

1. 【発達支援ファイルに関する専門部会】

経緯

時期	内容	主な意見等
H29.10～ H31.2	<ul style="list-style-type: none"> 発達支援ファイルに関する専門部会を全5回開催 構成や様式、配布方法等について協議 	<ul style="list-style-type: none"> 全員に配布し、<u>成長記録ファイルとして使用。気づきがあった際に発達支援ファイルとして活用。</u> 媒体はデジタルではなくアナログで。 1歳6か月児健診時に配布。必要な人には、配布時期に関わらず渡す。
R1.9	<ul style="list-style-type: none"> えみふるふあいる完成、配布開始 	

えみふるふあいるとは？

こどもが各ライフステージにおいて切れ目ない一貫した支援が受けられるよう、成長や発達、思い出を保管することができる成長記録のファイル。

- ◆**配布対象** 市内在住の18歳以下のすべてのこども
- ◆**配布時期** 1歳6か月児健診時に、説明のうえ全員に配布
- ◆**保管** こども及び保護者

活用の方法



- ・**ファイルを受け取ってから18歳まで**の成長を記録し、保管する。
- ・母子保健や福祉、教育、医療など様々な機関で相談や支援を受けたものを綴り、進学、転校などの引継ぎの際に、「えみふるふあいる」を活用することで縦横の連携を図ることができ、**切れ目のない支援**が受けられる。

2. 【えみふるふあいるに関する専門部会】

経緯

時期	内容	主な意見等
R2.2.～	<ul style="list-style-type: none"> えみふるふあいるに関する専門部会をこれまでに6回開催 具体的な活用例や効果、課題について協議 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に使用し続けてもらうこと、利用のハードルを低くすることが課題。 楽しい気持ちになれるのが良い。 学校での活用方法をどうするか。
R7.4	<ul style="list-style-type: none"> 全員がファイルを持つ年代が小学1年生になる 	

推進の方向性

えみふるふあいるを活用してもらうためのきっかけづくりが必要

- ①保護者を含む市民全体への「えみふるふあいる」の周知
- ②関係機関（認可保育所・幼稚園・認定こども園、発達支援事業所、学校など）での活用促進
- ③「えみふるふあいる」に綴じるものを新たに作るのではなく、今あるものを綴じていくという視点

市の主な取り組み

■①について

- ・【R1、R3】 **広報**（市広報誌特集記事・ラジオ出演）
- ・【R5】 **市内イベント**での周知（いわみざわ健康まつり、教育大あそびプロジェクト）
- ・【R6～】 **就学時健診**の際、保護者に対し、ファイルの紹介、チラシを同封

■②について

- ・【R1～】 **関係機関向け**の説明会を開催
- ・【R3～】 市の実施する**発達・言語相談**で活用

■③について

- ・【R4～】 関係機関へ、配布物に「**えみふるふあいるに保管しましょう**」の文言を追加するよう依頼 ※小学校へはR7～（例：身体測定や視力検査の結果票、体力測定の結果票、通知票など）

